

夏に挑む

この夏、各種全国大会で活躍した本市の小中高生たち
彼らの夏の挑戦に迫る



佐沼高箏曲部

全国高校総合文化祭
日本音楽部門 文化庁長官賞
(写真左から、門田亜子(2年)、千葉美咲(1年)、
及川明莉(1年)、菅原未来(1年)、阿部桃子(1年))

「全国2位の結果はうれしい。アナウンスを聞き間違えたかと思った」と門田と阿部はにっこり。

第41回全国高校総合文化祭「みやぎ総文」の日本音楽部門は7月31〜8月1日、多賀城市文化センターで開かれ、佐沼高校箏曲部が優秀賞・文化庁長官賞を受賞した。優秀賞は2位に相当する。

箏曲部は、2008年に創部し今年18年目を迎える。全国総文祭にはこれまで16回出場。全国の常連校として名高い。総文祭県代表校は、前年の日本音楽定期演奏会で、最優秀賞校が出演資格を得る。昨年は、門田一人で出場し、本年につながった。

「箏曲の魅力は、複数での演奏。早く仲間が欲しかった」と門田。本年4月、新たに4人が入部した。新入部員の1人、

した。出番が来た。広い会場、多くの聴衆に重圧を感じた。2人は「まずはしっかりと、自分たちの演奏をしよう」と舞台に上がった。聴衆は、奏者の人数の少なさに驚いていた。驚きとともに「どのような演奏が聴けるのか」という期待感も生まれた。

2人は同時に箏に手を置いた。最初の音が一つになった。リズムに乗り演奏が始まった。曲は徐々に激しさを増す。起伏が激しく、早いテンポにも2人の音はずれな

い。演奏のことだけ考えた。たった2人での演奏とは思えない迫力を表現。2人の音色は会場を魅了した。

佐藤さんから「みんなの応援を深く感じて、一生懸命弾けたね」とうれしい言葉ももらった。「審査結果を発表されたときは、自分たちだと思わなかった」と笑う阿部。文化庁長官賞受賞は、同校初の快挙。部員も関係者も歓喜に沸いた。

「本年の日本音楽定期演奏会では、最優秀賞を目指し練習している。来年は、5人全員で全国の舞台に立ちたい」

全国小学校陸上競技交流大会 2017年8月18、19日 横浜市日産スタジアム

6年男子100m

目標は、タイムを12秒台に縮めることでした。体が硬かったので、ストレッチなどに毎日取り組んできました。全国大会は、12秒93が出せてうれしかったです。準決勝には0秒1届かず、悔しかったです。中学校に行っても野球を続けながら、陸上で東北大会出場を目指したいと思います。



佐々木清翔
(柳津小6年)

5年男子100m

初めての陸上大会だったので、朝練に励みました。先生に言われた通りフォームを直したら、市大会では自己ベストの13秒9を出せました。全国はスタートが上手くいったけど、後半伸びず予選敗退。県代表として恥ずかしくないよう、練習を積み重ね、来年は12秒台を目指したいです。



佐々木兜牙
(北方小5年)

5年女子100m

全国大会での目標は、準決勝進出でした。初めての全国で、予選1組目になり、すごく緊張しました。練習してきた「背筋を伸ばして走る」はできましたが、目標が達成できず悔しいです。来年は、全国で準決勝に残れるよう、体育とスポ小のラグビーを頑張っていきます。夢は女子ラグビー日本代表です。



木川海
(佐沼小5年)

男子80mハードル

初めての全国でしたが、目標は「決勝に残る」でした。思ったより緊張せず、調子が良かったので、自己ベストを出せると思いました。スタートはこれまでで一番良かったのですが、周りよりも速く、あっという間においていかれました。中学に進んだら、陸上かバスケをしたいと思います。



渥美優希
(登米小6年)

男子走り高跳び

自己ベストの1m32を超え、8位入賞が目標でした。全国大会までは、助走のスピードとリズム、踏み切りのタイミングを徹底して練習しました。本番は思ったより緊張しませんでした。1m35を跳ぶことができませんでした。中学では、陸上かバスケに入部し、全国大会を目指します。



佐藤弘清
(石森小6年)